

しゃかいふくし ほうじん いわて かいこうほう し
社会福祉法人 岩手ひだまり会広報誌

ひだまり

2021.1
Vol.20

～ おもい つなぐ のびる ～

きたかみちゅうおう
ひだまり北上中央

謹賀新年

新年ご挨拶



理事長
高橋洋子

新年あけましておめでとございます。本年もよろしくお願致します。

昨年、新型コロナウイルス感染症が世界中で流行し、大変な年となりました。私たちも、消毒やマスクの着用が当たり前のようになり、今もなおコロナとインフルエンザに怯える毎が続いています。早くコロナが終息することを祈るばかりです。

今年の一月より北上地区は児童発達支援事業を始めます。これにより、就学前児童のお子様にも個別支援計画を作成し、一人ひとりにあった個別療育や集団療育を行っていきます。お子様の成長に大切な時期ですので、親御さんにも寄り添いながら、ともにお子様の成長を見守っていきたく考えております。

児童発達支援事業を放課後等デイサービスとの多機能型にするメリットの一つは、小学校に入学後もスムーズに利用ができることです。小学校に入学し、環境の変化についていくのは大変なことです。特に発達に課題を抱えるお子様にとっては、私たちが考える以上に不安やストレスを感じると思います。それは、お子様だけではなく、親御さん自身も同じだと思います。放課後は、今まで通ったことがある場所として知っているお友達や職員がいることが、安心へとつながると思います。親御さんにとっても、いつでも相談ができ、安心できる場所にしていきたく思います。

昨年は、コロナの関係で保護者会の活動ができませんでしたが、今年は保護者同士の交流の機会を持つことを願っております。今年、三年に一回の障害福祉サービスの報酬改定の時期でもありますので、動向を見ながら、来年度の事業についても検討していきますと思います。役員一同邁進していきますので、今後もし指導・鞭撻の程よろしくお願申し上げます。

じぎょうしょしょうかい
事業所紹介
 みずさわえきひがし
ひだまり水沢駅東



社会福祉法人岩手ひだまり会の放課後等デイもお陰様で十五年目を迎えました。各事業所は共通した療育支援はもちろん行っていますが、それぞれの個性もあります。ここでは、利用している保護者さんからのリクエストもあり、それぞれの事業所をこれから紹介していきます。



千葉浩枝所長 開所当時から療育支援に携わっている保育士です。

Q. 事業所の特徴とはなんですか？

A. 利用者は、支援学校へ通う児童が約7割で、他は市内の学校等へ通う方々をお預かりしています。
 建物は、一階と二階に部屋が分かれており、活動内容や個別対応が必要な場合等、使い方に合わせ柔軟に活用しています。

Q. 事業所で力を入れている活動や取り組みを教えてください。

A. コミュニケーション力の向上に向けた取り組みと、外出支援です。自分の気持ちを相手に伝えることが難しい方が多く見られます。言葉だけではなく、絵カードやジェスチャー等、それぞれのお子さんが表現できる方法で意思を伝えられるよう、くり返し取り組んでいます。

外出支援は、岩手の豊かな自然に触れ、多くの人との関わりの中から、体験を通して出来るが増えるよう、積極的に出掛けていきます。

将来に向けて、困り感が少しでも減って、生きやすくなるよう取り組んでいきたいと考えています。

Q. どんな事業所を目指していますか？

A. 利用者の方々やご家族、そして職員が皆「あふれる笑顔」で過ごせる事業所でありたいです。



5月 みずさわ公園にて

そうだん し えん じ ぎょうしよ
相談支援事業所ひだまり



すがわらのりおしよちょう いろいろ そうだん てき
 菅原憲雄所長 色々な相談に的
 かく 確に答えてくれます。

Q. 事業所の特徴とはなんですか？

A. 相談支援事業所ひだまりは、平成二十五年二月に開所し九年目となります。児童学
 年齢から青年期・壮年期までのライフス
 テージを通して一貫性のある支援を心掛け
 ています。

相談支援事業所を利用されている方は、
 現在約百七十名です。その割合は、成人が
 二十%、児童が八十%の状況です。多岐に
 わたり相談支援事業を専門的に行っており
 特徴としては障がいを持っている方、保護
 者様がいつでも簡単に相談できる体制を築
 いていく相談支援を行っています。

**Q. 事業所で力を入れている活動や取り組み
 を教えてください。**

A. 相談支援事業所ひだまりとして、市子育
 て支援センター、幼児教室、療育教室や学

Q. どんな事業所を目指していますか？

A. お子さんの相談支援だけではなく、同じ
 悩みを持つお母さん方の相談支援も必要と
 考え、幅広く事業展開していきたいと思っ
 ています。

校、幼稚園、保育園、就労施設と連携を
 りながら、利用者保護者が気軽に相談でき
 るように取り組んでおります。
 また、同じ悩みを持つ保護者の皆さんが
 集まり相談しながら子育てを応援する「子
 育てカフェ」や『ペアレント・トレーニング
 グ』を学ぶことにも取り組んでいきます。



じぎょうしよない なご ふんいき
 事業所内は和やかな雰囲気なので、
 お 落ち着いて話すことができます。



工夫くふうして楽しんでたのしいクリスマスデー！



今年のクリスマス会は、お楽しみ会等各事業所で工夫を凝らしながら開催されました。

行事の開催には、奥州市歳末助け合い運動地域づくり活動助成事業を活用させていただきました。また、株式会社ホソカワ様より、お菓子入りサンタブーツ、株式会社公衆ウィンズ奥州様より、お菓子詰め合わせのご寄付を頂きました。沢山の方々のご協力をいただき、いつものように大きな会場で集まれなくても、みんなで工夫をして楽しいクリスマスを過ごすことができました。

盛りだくさんのプレゼントに、素敵な笑顔の皆さんでした。



保護者アンケート集計結果

*平成29年の児童福祉法改正を受け、「放課後等デイサービスガイドライン」が示され、どの放課後等デイサービスも一年に一度評価と改善事項を公表することを義務付けられました。ここではガイドラインに基づき保護者向け放課後等デイサービス評価表結果をご報告いたします。

*アンケートは保護者向けと事業所向けの二種類ありますが、今回保護者向けの結果のみご報告いたします。なお、ホームページでも閲覧可能ですのでよろしくお願いいたします。



はい どちらともいえない いいえ 無回答

保護者だより



ひだまり江刺桜木
父 沼田 秀幸さん
利用者 利用 秀明さん

ひだまり江刺桜木を利用するようになり
五年目になりました。秀明は自閉症のため
コミュニケーションなどが苦手なので、ひ
だまりを利用し始めた頃は、とても心配で
不安でしたが、職員さんが優しく接してく
ださったおかげで徐々に慣れていきました。
今では、ひだまりを利用するのがとても楽
しみになっています。

中学二年生になり、コミュニケーション
や人との関わり方などが少しずつ上達して
おり、これも職員の皆さんの温かいご支援
によるものだと思います。秀明の成長を感
じる事ができたことに本当に感謝してい
ます。これからもよろしくお願い致します。

いつも笑顔の彩楓さん!



三平 彩楓さん (二十歳)
今日も元気にマットを伸ばす作業をする彩楓さん

平成二十一年三月前沢明峰支援学
校を卒業した彩楓さん。自宅から近
い事などから、同年四月から社会福
祉法人胆沢コスモス会「きらきらば
し」に、月曜日から金曜日までの毎
日、通所しています。

コスモスでは、午前は散歩や体操
を行い、午後は梱包の際に部品を守
るマットを伸ばす作業や、段ボール
箱のテープをはがして解体したり、
リサイクル用の牛乳パックを切り開
いたりする作業を行っています。

いつもニコニコと笑顔をかかさず、元
気に挨拶を行う彩楓さん。どんな仕事で
も嫌がらず、自分から手を挙げて積極的
に行い、余暇時間にはドライブに出かけ
たり、映画鑑賞したりしている他、音楽
療法、図書館へ行く日、パンを買いに行
く日などを、とても楽しみにしている事
を職員の方よりお話をいただきました。
昼食は食堂でみんなと食べ、「みんな
美味しいよ」と元気良く答えてくれた彩
楓さんでした。

○当時の職員より

横町主任児童指導員 亀井 諠恵

私が採用となり横町に配属となつ
て、一番初めに声をかけてきてくれ
た利用者さんが彩楓さんでした。ど
んなことにも明るく前向きにチャレ
ンジする姿からたくさん元気をも
らっていました。

これから待っている様々な経験を、
彩楓さんらしく楽しんでほしいです。
応援しています!

所長のひとり言

コロナ雑感

ひだまり水沢森下所長 尾山 恒夫



一体いつになったら収束するのか。諸説あるが日本の場合、早くて半年位でワクチンが出来るとか：でも期待は出来ない。コロナの影響で社会は変わった。特に人が多く集まるイベント、会議等は中止となり在宅ワーク、テレワーク等が定着しつつあるようだ。そしてコロナ差別がひどい。なんとなく気持ちから分かんなくもない。いや、こういった言い方自体差別なのだろうが。日頃、障がい者への差別をなくそうという立場を考えると情けなく、自分が分からなくなっている。専門家の言葉を借りると、人類は感染症の歴史において

では差別と偏見の戦いだったそうだ。乏しい知識から思い浮かべると、ハンセン病など国を挙げての隔離政策は明治から平成まで続いた悲しい歴史がある。また、差別的な政策で顕著だったのは、優生保護法に見られる障がい者差別（不良な子孫の出生防止）。これは現在も裁判が続いている。

コロナの話に戻ると、最も深刻な問題に挙げられるのが貧困問題だろうか。このようにコロナがもたらしている問題は、地球的規模に広まりその深刻度は益々高まっている。さて、ひだまりを取り巻く環境はどうだろうか。今のところ関係者に感染の話は聞こえてこないが時間の問題なのかも知れない。コロナに関するマニュアルはあるが差別や貧困という用語はない。岩手県ではホームページ等で「人権に配慮し、差別・偏見・誹謗中傷はやめましよ」と呼び掛けてはいるが実態はとなると腹立たしい限りである。職場で常に心掛けていることとして、「自分がその立場だとしてらぶりするか」ということ。そつなのだ。コロナは他人事ではなく自分のことなのだ。

寄贈品

左記の方より寄贈頂きました。

- 令和二年四月七日
（株）公衆ウイנס奥州様より
お菓子詰め合わせ二百五十個
 - 令和二年四月十六日
絵画十一枚
 - 令和二年五月七日
菅原能興様より おもちゃ
 - 令和二年六月三日
佐々木雄悦様より 座位保持椅子、おもちゃ
 - 令和二年八月二十六日
菅原組様より タオル大量
 - 令和二年十月五日
川村修様より
 - ヤマハ電子オルガン、シャープ電子レンジ、日立掃除機
 - 令和二年十一月十一日
木製座卓 一脚
- ありがとうございました。

編集後記

例年になく大雪となりました。また、コロナ禍の中ほぼ全ての行事が中止となる中、今回は各事業所内での活動掲載となりました。これから益々寒さが厳しくなりますので衣類をこまめに調整しながら寒さに負けず元気いっぱい活動していきたく思います。（菅野）

発行・編集 社会福祉法人岩手ひだまり会 広報委員会
TEL: 0197-47-4222 FAX: 0197-47-4223 URL: <http://ousyu-hidamari.or.jp>

印刷 有限会社工利フジ社 岩手ひだまり会法人本部
住所 〒023-0818 奥州市水沢東大通り二丁目4番3号
『社会福祉法人岩手ひだまり会』をクリック